

# 平成30年度 1年次 キャリアガイダンス

1 目的 様々な職種に従事している方々の具体的な体験にもとづいた講話を伺うことにより、「働くことの意義」や「社会人として求められること」などについて理解を深めるとともに、様々な職業分野への興味・関心を高め、進路選択の参考とする。

2 実施日 平成30年11月27日(火) 6, 7時間目

3 日程

13:30~14:00 受付  
 14:00~14:25 学校長挨拶・日程説明  
 14:25~14:40 各会場に移動(14:35着席完了) ※筆記具, レポート用紙持参  
 14:40~15:25 講話(1回目) 講師紹介, 講話(約35分), 質疑応答(約5分)  
 15:25~15:35 各会場に移動(15:30着席完了)  
 15:35~16:20 講話(2回目) 流れは1回目と同様

## 2 実施講座一覧

		勤務先	講師の先生	講話タイトル	場所
A (教育)	1	茨城県教育庁(高校)	津賀 宗充 先生	教育公務員の仕事	物理室
	2	茨城県教育庁(義務)	入之内 昌徳 先生	茨城の未来の創り手となるみなさんへ	社会科室
	3	茨城県教育庁(特支)	掛田 和久 先生	教員の魅力について	地学室
B (教育支援)	4	ベネッセコーポレーション	杉浦 唯理 先生	教育業界の民間企業で働くということ	アッセンブリー1A
	5	早稲田大学	上田 紗菜恵 先生	大学で働くということ	1年2組教室
C (医療・健康)	6	きぬ医師会訪問看護ステーション	夷亀 いずみ 先生	看護の仕事って?	1年5組教室
	7	東京都済生会向島病院	岡野 知美 先生	「知っているようで知らない 栄養士の世界」	コンピューター室
D (運輸・観光)	8	関東鉄道	和田 務 先生	君の未来に出発進行!!	1年4組教室
	9	(株)JT B関東	井川 歩実 先生	旅行業界の魅力と将来輝いていく皆さんへ伝えたいこと	亀陵会館2F
E (通信・メディア)	10	東日本電信電話(株)	松井 聡幸 先生	電気電子工学の学生から情報通信の技術者へ	1年1組教室
	11	東京メトロポリタンテレビジョン	三嶋 亮二 先生	「取材現場の裏側 教えます!」	講義室3
F (情報)	12	株式会社ミスミ	田村 英祐 先生	目標を見つけた経緯~文系から IT 企業へ~	アッセンブリー1C
	13	株式会社サイシード	関 翔太郎 先生	文理だけでは語りきれないビジネス世界の現実	アッセンブリー2A
G (研究(理系))	14	防災科学技術研究所	藤田 英輔 先生	地球を調べる ー研究職の仕事ー	アッセンブリー1B
	15	農林水産省	岡 直子 先生	農業→海外→研究→政策	1年3組教室
H (経営・コンサル)	16	旭化成ファーマ株式会社	小林 亮也 先生	文系・理系が共に医療に携わる MR という職種について	音楽室
	17	経営コンサルタント	田中 正樹 先生	「企業の町医者」としての経営コンサルタントの仕事とは	1年6組教室

# 1 年次キャリアガイダンスにおいて自分の将来を考えた上で参考になったこと

## 看護師の仕事って？

・看護師の仕事は医者サポートのようなことだけだと思っていたけど、患者さんの体と心を支えることや入院生活の世話や診察の補助を中心に仕事をしていることが分かりました。また、講師の〇〇先生は訪問看護という病院に行くことができない人や家族との時間を大切にしたいのために、その人の家に行って治療の手助けをしているそうです。訪問看護は、病院で行うわけではないためデータがすぐに見ることができず大変なことが多いけど一人ひとりの患者さんに寄り添っていく在宅医療が今後増えていくと言っていました。看護師の仕事は、人の人生にかかわれる、人間的に成長できる仕事だそうで素敵な仕事だと思いました。

・私は、先生のお話の中で、「患者さんより先に泣いてはいけない。」という言葉がとても印象的でした。看護師のお仕事は、人の人生にかかわるお仕事です。対象は赤ちゃんから高齢者まで、とても幅広いです。看護師は、患者さんの体と心を支えます。心の痛みは、体の痛みになります。事故で右足をなくした方が、「右足の先が痛むから、さすってほしい。」といったそうです。そういう時に、心に寄り添えることが大切です。人がなくなる瞬間に立ち会うとき、看護師は、泣かないようにするそうです。つらいのは、患者さんだから。苦しいこともあるが、感動もたくさんあるお仕事だそうです。「つらい時期を乗り越えた患者さんが、退院する姿を見るのは、とてもうれしい。」とおっしゃっていました。看護師は、笑顔や元気をもらい、与える、素晴らしい仕事だと思いました。

## 電気電子工学の学生から情報通信の技術者へ

・普段、身近で使用している NTT の方の話を聞いて、今までの知識に加えて仕事人ならではの話を聞くことができた。高校までに学ぶことは、一般知識として社会に出た時の土台となり、そこから仕事を通じて学べるのがたくさんあることが分かった。また、「資格は取ってからがスタートライン」という言葉はこれからとる検定に生かしていきたいと思った。NTT の仕事が部署ごとに、目標や目的が違い様々なニーズに答えられるようにしていた。仕事のやりがい自信にもつながり、新たな道を見つけられるのだと分かった。

・NTT の会社に務めるためには技術士という国家資格が必要である。先生は大学で工学部、電気工学部に通っていて、大学院では厳しい教授の下で電気回路などの研究をしていた。論文を書く時は英語で書くこともある。その際、国語力と英語力が重要なので理系に行ったからといって、疎かにしてはいけないと言っていた。最も印象に残ったことは通信についてのお話です。どこか一つの県で災害が発生しても契約しているほかの県が無事であれば通信ができない、連絡がつかない、ということがないということだ。さらにもう一つ、電柱がない所は歩道の下にケーブルをひいていることだ。今まで聞いたことがなかったので驚いた。その費用は 1 キロにつき 3,5 億円だそうだ。理系に行っても英語がとても大切であり、国語力がないと会議の時に苦労してしまうので、もし理系に行く時は英語もしっかり学ぶことが重要だ。国家資格を持っていると公共事業に入社する時に有利であることが分かった。〇〇先生が言ってくれた言葉で心に残ったのは 学びは学生時代だけではない、資格を取った時がスタートラインである。この言葉はしっくりきた。夢に向かって勉強する事は大事だと思った。

## 農業→海外→研究→政策

・先生の話を実際に聞いて、理系の職業に対する印象が大きく変わった。理系の職業でいうと研究がまず第一に思いつくが、先生の研究の話聞いてすごく興味がわいた。世界のいろいろな国でたくさんの開発事業をして、世界に貢献しているなと感じた。今は、農林水産省に勤めていると聞いたが、そこでは英語の大切さ、日本にどんな利益があるかなどの利益追求の他、たくさんの方のことを学べた。特に、農林水産省などの役所での仕事は、研究とは違って自由がきかないというところがすごく印象に残った。仕事案も、様々な部屋を通らないと可決されないのも驚いた。これから自分の将来の道が広がるなと深く感じた。学んだことを活かして研究職にも目を向けていきたい。

## 取材現場の裏側、教えます

・記者は、裏側の仕事ですが、私たちが気持ちよくテレビを見るために重要な働きをしています。記者はその情報をいち早くつかむ、人々と深い関係を築くのが簡単です。私は、先生の話聞いて、人とかかわりを深く持つことがとても大切だということがわかりました。また、将来については、どういうところが得意でどういうところで働きたいのかということをしっかり考えることがとても大切で、勉強は将来にとっても役立つと思いました。2020年には東京オリンピックも控えていて、外国人とかかわることも多くなります。私は英語ができないので、それを聞いて、勉強はどの仕事についていたとしてもその知識を使う場面はたくさんあり、苦手意識を持たないことが大切だということが改めてわかりました。また、大人になると知りたくても教えてくれる人がいないので今のうちに勉強することが大切だと思いました。



## 目標を見つけた経緯 ～文系からIT企業へ～

・今回の話を聞いて、IT企業は種類が意外とあることを知った。また、IT企業によるデジタル化によって効率が悪くなったり、離れたところでもコミュニケーションがとれたりなど、これからの社会を担う大切な職であると知った。また、やりたいことを見つける、沢山のひとふれあう、沢山勉強して沢山考えることが大切であると学んだ。そして今のうちから人前で話す機会をたくさん経験したほうがいいというアドバイスを頂いた。

## 旅行業界の魅力と将来輝いていく皆さんへ伝えたいこと

・もともと、英語を使い世界に関わる仕事がしたいという夢があったので、今回のJTBさんの話はとても参考になりました。特に「この仕事は人にきっかけを与えられます」という言葉はJTBさんの仕事に対して、旅行の手助けというイメージが強かった私にとってこんなにもやりがいを感じることができるのか、と凄く印象に残りました。また、講師の先生がおっしゃっていた社会で通じる【3つの要素】は今の私に最も必要なものなのだと改めて気づかされました。そして夢を叶えるために自分が何をすべきなのか多く思い浮かび、より将来への希望が強まりました。今からでも自分にできることは積極的に挑戦して夢に近づきたいです。



## 教員の魅力について

・元々子どもに関わる福祉の仕事に就きたいと思っていたので、今日の特別支援教育の講座はとてもためになった。特別支援教育の魅力は一人一人のニーズに合わせたオーダーメイドな教育ができるという点、最近では公立校でも地元の小中学校に通いたいという要望に答えて支援員さんがつくことで通うことができる。このように社会の障害への見方が変わってきていることを知った。また、障害は体が不自由なことに対してではなく、その人の特性に応じた環境が整っていないため、やりたいことができない状態のことを障害という考え方に自分の中での考えが変わった。話すこと・書くことが出来ない人は、タブレットで読み上げたり、カメラ機能を使ってノート代わりに記録できるなど、その人の特性に応じた環境を整えば、障害は障害でなくなる、この考え方をもっと皆にも知ってもらいたいと思った。そして、いつか差別のない、障害のない、魅力ある社会ができればいいなと思った。



## 地球を調べる ー研究者の仕事ー

・今回のお話を聞いてとても研究職に興味を持ち、この職に就きたいと思った。そのために先生がおっしゃっていた、研究職になるために必要なことである好奇心、冒険心、忍耐力、英語力、プレゼン能力を今のうちから身に付けていきたいと考えた。正直研究は大変であると思っていたが、話を聞いてみると意外と面白そうのでやってみたいと感じることができた。「自分がおもしろいと思うものに突き進むことが大切！」という先生の言葉がとても印象的だった。それを踏まえて、おもしろいと思える職に就くためにこれからの努力がとても大事だと思い、頑張りたいと思った。

## 文理だけでは語りきれないビジネスの現実

・講師の先生の話聞いて大切だと思ったことは、今自分たちは文系や理系の選択に迷っている時期だと思うけれど文系や理系にはとらわれてはいけないと思った。その理由は、将来の仕事で文系、理系どちらも必要な仕事もあるので全ての教科をバランスよく勉強することが大事だからだ。そして勉強の仕方でも重要なことは、効率よく勉強することだ。まず何の勉強するかを考えて計画を立てることが重要だと思う。

・「仮定」というテーマで仕事や勉強の導き方を知ることができた。様々な企業で大きな目標をかなえるためには、仮説が大切でゴールへの近道となるとわかった。普段の学習でも同様で、大きな目標に向けて仮説の分解を行い、一日のタスクを行えているか確認し、達成感や自信をつけていくことで勉強量\*勉強効率\*経験値\*経験効率を意識して自分にも生かしていきたい。また、今文理がそうか決めつけるのではなく、社会で仕事をするときにはどちらも必要だとわかり、総合知という考え方をして文理にとらわれずに、夢を見つけて学習していきたい。



## 君の未来に出発進行！！

・関東鉄道の話ということで、資格や知識重視の話になるのかなと思っていたのですが、実際はそうではありませんでした。鉄道会社だとしても、ただ運転ができればよいという訳ではなく、本社勤めになれば、事務的な能力が必要だし、最近は海外のお客様のための英語の音声案内のために英語の能力が必要だという話から、偏った知識ではいけないと考えることができました。

・私がお話を聞いて、印象に残ったことは「駅で働いている人は意外と様々な種類の仕事をしていた」ということです。関東鉄道は多くの場面で活躍していてすごいなあと思いました。また、本社と営業所との仕事内容が全く異なっていて驚いた部分も多くあります。常総線では、文系、理系関係なく、就職できると聞いて驚きました。高校時代に勉強したことが仕事に使えることもお話されていたので今の勉強は無駄にならないこともわかりました。自分で就職したいところに就職するには、地道にコツコツと頑張らないといけないなあと思いました。今のうちから、取得できる資格を多く取得し、将来のためになるようにしたいと思います。また、〇〇先生は中学生のころからラジオを作ったり、タイマーも作ったり、いろいろなことに興味を持っていて、チャレンジすることも大切なんだと思いました。

## 「企業の町医者」としての経営コンサルタントの仕事とは

・私は、経営コンサルタントの仕事がどのような仕事なのか、わかっていませんでしたが、会社と信頼関係が築けるなど、話を聞いて私が何となく想像していたよりも、温かい仕事だなと思いました。先生の、「将来の道は目の前のことに最善を尽くしたときに見つかる」という言葉がとても胸に刺さったので私も今できることを精一杯頑張ろうと思いました。

・自分の知らない仕事である「コンサルタント」について学んだ。まったく知識がない状態であったが、コンサルタントになるまでの経緯などについてわかりやすく興味をもって知ることができた。「企業の町医者」とよばれていて企業を助けるというとても素晴らしい職業だと思った。

## 茨城の未来の創り手となるみなさんへ

・「教員という職業は生徒の心に残り続ける」という言葉に感動しました。また、たくさんの人との出会いや様々な経験をすることが大事であり、教員という職業にかかわらず全てのことに通じるのだと思いました。今後の経験がこれからの将来や夢につながるのだと考え、これから起こる一つ一つの出来事を大事にしたいと思いました。最初英語についての話で英語の大切さも教えて頂き、何事も挑戦することが大事であると感じました。また、英語だけでなく外国とコミュニケーションをとるために様々な言語も必要とされている私たちは何事も学ぶ姿勢が大事であり、私自身様々な事に挑戦していきたいと思います。

## 大学で働くということ

・大学で働いていると聞き、初めは講師の方だと思ったが、職員という仕事があることを知った。お仕事のことでだけでなく、早稲田大学についても沢山お話を聞かせていただいた。様々な人が集まっているようで、早稲田大学に興味を湧いた。奨学金の仕組みについても詳しく知ることが出来た。学生さんと接する機会も多く、たくさんの人と関われる仕事だそう。〇〇先生は、夢が決まっていなかったから、将来の可能性が多い早稲田大学に進み、大学生活を通して夢を見つけたとお話してくださった。わたしも夢が決まっていないので、いつ決まってもその道を進めるように、勉強に励んでいきたい。また、何が夢を見つけるきっかけとなるかはわからないので、何事にも挑戦したい。

## 文系・理系共に医療に携わる MR という職種について

・〇〇先生は文系から医療に携わる MR という職種についていらっしゃいました。私も文系を選択しますが医療に関わる仕事に就きたいと考えているので、とてもためになりました。小林先生は「何になりたいのか」から方針を考え行動する必要があると おっしゃっていました。なりたい職業はまだ決まっていないのでさまざまな職種を調べて自分の将来につなげていきたいです。最近、医療関係の仕事に就くことを諦めかけていたのですが小林先生が MR「働く」ことにたいする思いをお話してくださった中で、命を救う手助けになる というおもに医療関係だからこそ考えられる 感じられる、経験できることがあると思いました。やはり自分のやりたいことを職業にしたいとあらためて思いました。とてもためになりよかったです。

## 知ってるようで知らない栄養士の世界

・先生の話聞いて、私は栄養士について詳しく知らなかったんだなあと感じました。先生が栄養士になろうと考えた理由は、①長く働きたい②食に興味があった③母が料理してるのを見て、いいなと感じた、という三つだということを知り、職業を選ぶ時の決め手として、自分が好きなこと、興味のあることから考えることもいいことだと思いました。栄養士とは、いろいろな人の体について、一番いい食事を勧めると



いう仕事で、本当に多くの人の役に立つ仕事だと思いました。進路について悩んだ時は、好きなことなど、原点に戻って考えてみたいと思いました。

### 教育業界の民間企業で働くということ

・仕事と聞くとネガティブなイメージしか思い浮かばなかった。だが、講話の中にスケジュールが仕事で埋まっ  
ていて大変だけどやりがいがあるということや、先生などのお客さんと付き合っていく大切さなどの話があり、私はお金を稼ぐために働くのではなく、その仕事にやりがいを感じ、自分を成長させてくれるものと考えて働くものなのだと思った。



※この行事は、平成30年度一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業『海高プロジェクト』として実施しました。